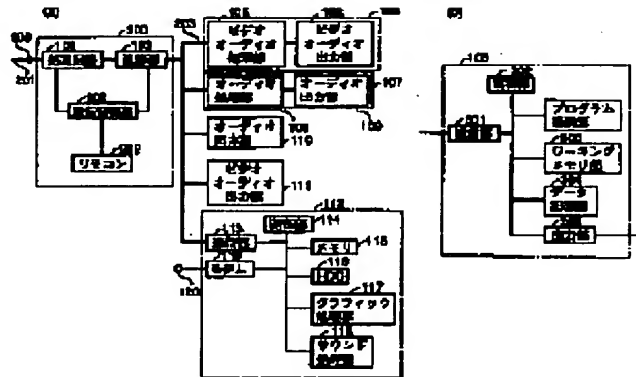


DATA TRANSFER OUTPUT METHOD AND ITS MEDIUM**Publication number:** JP10174029**Publication date:** 1998-06-26**Inventor:** INAGAKI SATORU; OKADA TAKESHI**Applicant:** MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD**Classification:****- international:** G06F13/12; H04N5/765; H04N5/93; H04S5/02; G06F13/12; H04N5/765; H04N5/93; H04S5/00; (IPC1-7): H04N5/765; G06F13/12; H04N5/93; H04S5/02**- European:****Application number:** JP19960329280 19961210**Priority number(s):** JP19960329280 19961210

Report a data error here

Abstract of JP10174029

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide the data transfer output method and its medium in which circuit of a data output destination is more easily conducted in comparison with a conventional method. **SOLUTION:** A data transfer output controller 200 controls an output destination of an input signal 201 received at an input terminal 100, a remote controller 202 is a means by which the user makes an operation to the data transfer output controller 200 and the input terminal 100 is a terminal to receive the input signal 201 such as a video audio signal by a digital satellite broadcast and a large screen television receiver 104, a component 107, a radio cassette receiver 110, a small screen television receiver 111, and a personal computer 112 are interconnected in an in-home network 203 having the data transfer output controller 200 as a core device respectively.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-174029

(43)公開日 平成10年(1998) 6月26日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

F I

H 0 4 N 5/765

H 0 4 N 5/782

K

G 0 6 F 13/12

3 3 0

G 0 6 F 13/12

3 3 0 B

H 0 4 N 5/93

H 0 4 S 5/02

J

H 0 4 S 5/02

H 0 4 N 5/93

E

審査請求 未請求 請求項の数18 O L (全 8 頁)

(21)出願番号

特願平8-329280

(22)出願日

平成8年(1996)12月10日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 稲垣 悟

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)発明者 岡田 健

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

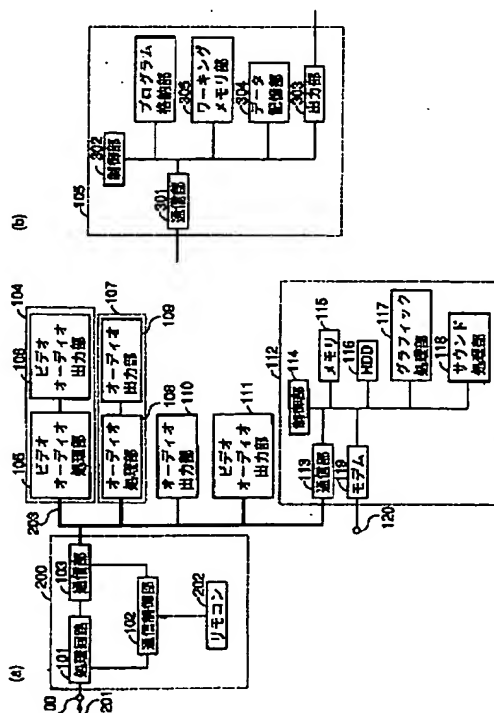
(74)代理人 弁理士 松田 正道

(54)【発明の名称】 データ転送出力方法及び媒体

(57)【要約】

【課題】ユーザが映像データを視聴する場合、各種出力機器の特性を有効利用する為にはその都度出力機器の電源スイッチをONしたり、サラウンド効果のON/OFFを切り換える等の面倒な操作が必要であったという課題。

【解決手段】データ転送出力制御装置200は、入力端子100に入力されてくる入力信号201の出力先を制御し、リモコン202は、データ転送出力制御装置200に対してユーザが操作を行うための手段であり、入力端子100は、デジタル衛星放送による映像音声信号等の入力信号201を受け付ける端子であり、大画面テレビ104、コンポ107、ラジカセ110、小画面テレビ111、パーソナルコンピュータ112が、データ転送出力制御装置200を中心とする家庭内ネットワーク203によりそれぞれ接続されている構成とする。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 データ部と、そのデータ部の内容を分類するための分類情報を含むヘッダ部とを有するデータ列を受け付けるステップと、
前記受け付けたデータ列の内、前記ヘッダ部から前記分類情報を読み出す読み出しステップと、
前記分類情報に対応するデータ部の転送先を定めたテーブルを利用して、前記読み出された分類情報からそのデータ部の転送先を決定する転送先決定ステップと、
前記決定された転送先に対して、前記データのデータを転送する転送ステップと、
前記転送されてきたデータを処理し、出力する処理・出力ステップと、を備えたことを特徴とするデータ転送出力方法。

【請求項 2】 前記テーブルには、前記データ部に含まれる複数種類のデータのそれぞれに対応する転送先が定められており、
前記転送先決定ステップで、前記分類情報から前記データ部に複数種類のデータが含まれていると判定された際、それら複数種類のデータを前記テーブルに定められた転送先に応じて分離する分離ステップを備え、
前記データ部のデータを転送するとは、前記分離されたデータに対応するそれぞれの転送先へ転送することであることを特徴とする請求項 1 記載のデータ転送出力方法。

【請求項 3】 前記決定された転送先は複数個あり、且つ前記データ部に複数種類のデータが含まれている場合、それらデータを前記決定された複数個の転送先へ重複して転送し、各転送先では、前記転送されてきた前記複数種類のデータから前記処理対象となるデータを分離し、その分離したデータを前記処理することを特徴とする請求項 1 記載のデータ転送出力方法。

【請求項 4】 前記データ部のデータ処理に利用される処理パラメータが、前記ヘッダ部に予め格納されていることを特徴とする請求項 1～3 の何れか一つ記載のデータ転送出力方法。

【請求項 5】 前記データ部のデータ処理に利用される処理パラメータが、前記テーブルに格納されていることを特徴とする請求項 1～3 の何れか一つに記載のデータ転送出力方法。

【請求項 6】 前記処理パラメータが変更された際、その変更履歴を蓄積し、その蓄積された変更履歴に基づいて、前記処理パラメータを更新することを特徴とする請求項 4 又は 5 記載のデータ転送出力方法。

【請求項 7】 前記テーブルが複数種類設けられており、それら複数種類のテーブルの中から、利用対象となるべきテーブルを選び出すことを特徴とする請求項 1～3 の何れか一つに記載のデータ転送出力方法。

【請求項 8】 前記テーブルが変更された際、その変更履歴を蓄積し、その蓄積された変更履歴に基づいて、前

記テーブルを更新することを特徴とする請求項 1、2、3 又は 7 記載のデータ転送出力方法。

【請求項 9】 請求項 1～8 の何れか一つに記載の各ステップの全部又は一部のステップをコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したことを特徴とする媒体。

【請求項 10】 データ部と、そのデータ部の内容を分類するための分類情報を含むヘッダ部とを有するデータ列を受け付けるステップと、

10 前記受け付けたデータ列の内、前記ヘッダ部から前記分類情報を読み出す読み出しステップと、
前記分類情報に対応するデータ部の転送先と出力先とを定めたテーブルを利用して、前記読み出された分類情報からそのデータ部の転送先と出力先とを決定する転送先・出力先決定ステップと、
前記決定された転送先に対して、前記データ部のデータを転送し、その転送したデータを処理する転送ステップと、
前記処理されたデータを前記決定された出力先に送り、その送ったデータを出力する出力ステップと、を備えたことを特徴とするデータ転送出力方法。

【請求項 11】 前記テーブルには、前記データ部に含まれる複数種類のデータのそれぞれに対応する転送先と、それら各転送先に対応する出力先とが定められており、

前記転送先・出力先決定ステップで、前記分類情報から前記データ部に複数種類のデータが含まれていると判定された際、それら複数種類のデータを前記テーブルに定められた転送先に応じて分離する分離ステップを備え、
30 前記データ部のデータを転送するとは、前記分離されたデータに対応するそれぞれの転送先へ転送することであり、前記決定された出力先に送るとは、前記対応する出力先へ送ることであることを特徴とする請求項 10 記載のデータ転送出力方法。

【請求項 12】 前記決定された転送先と出力先はそれぞれ複数個あり、前記決定された出力先は前記転送先と対応しており、且つ前記データ部に複数種類のデータが含まれている場合、それらデータを前記決定された複数個の転送先へ重複して転送し、各転送先では、前記転送されてきた前記複数種類のデータから前記処理対象となるデータを分離し、その分離したデータを前記処理し、その処理したデータを前記対応する出力先に送ることを特徴とする請求項 10 記載のデータ転送出力方法。

【請求項 13】 前記データ部のデータ処理に利用される処理パラメータが、前記ヘッダ部に予め格納されていることを特徴とする請求項 10～12 の何れか一つ記載のデータ転送出力方法。

【請求項 14】 前記データ部のデータ処理に利用される処理パラメータが、前記テーブルに格納されていることを特徴とする請求項 10～12 の何れか一つに記載の

データ転送出力方法。

【請求項15】 前記処理パラメータが変更された際、その変更履歴を蓄積し、その蓄積された変更履歴に基づいて、前記処理パラメータを更新することを特徴とする請求項13又は14記載のデータ転送出力方法。

【請求項16】 前記テーブルが複数種類設けられており、それら複数種類のテーブルの中から、利用対象となるべきテーブルを選び出すことを特徴とする請求項10～12の何れか一つに記載のデータ転送出力方法。

【請求項17】 前記テーブルが変更された際、その変更履歴を蓄積し、その蓄積された変更履歴に基づいて、前記テーブルを更新することを特徴とする請求項10、11、12又は16記載のデータ転送出力方法。

【請求項18】 請求項10～17の何れか一つに記載の各ステップの全部又は一部のステップをコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したことを特徴とする媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、データ転送出力方法及び媒体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、テレビの映画番組の映像音声データを受信して出力機器へ出力する場合、あるいは、VTRやDVD等のなどの映像音声データを再生する場合、映像音声データをテレビのみに出力して視聴すると言うやり方の他に、映像はテレビを利用し、音声はコンポを利用すると言う利用の仕方が知られている。

【0003】これは、言うまでもなく各出力機器の特性をより有効に活用することを目的とした利用の方法である。

【0004】この様な、利用の仕方について以下、具体的に説明する。

【0005】即ち、DVDを再生して映画を視聴する場合、ユーザは(1) 先ず、DVD再生装置において、その映画を何れの出力機器に出力するのかを選択し、

(2) そして、選択した出力機器がテレビとコンポであれば、それら双方の電源スイッチをONにし、(3) 更に、テレビとコンポの双方の入力源が、DVD再生装置からの出力データとなるようにセットすると言う一連の動作を行う。

【0006】これにより、ユーザは、映像は、テレビの大画面により、又音声は、コンポからの音響効果の豊かな音声を楽しむことが出来る。

【0007】又、音楽等のコンテンツを再生する場合、例えば、それがクラシック音楽の場合とコンピュータミュージックの場合とでは、一般には、イコライザーのパラメータを変更した方が聞き易いので、ユーザの好みに応じてその都度マニュアル操作により、変更すると言う作業を行っていた。

【0008】更に又、サラウンド効果を付加して音楽を楽しんだ後に、通常のニュース番組等を視聴する場合は、サラウンド効果をOFFにして、ニュース番組の音声聞き易くする様に調整していた。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記の様な利用方法では、使用する出力機器が一つであるか複数個であるかに関わらず、例えば、映像データを視聴する場合、ユーザは、その都度、出力機器の選択をし、選択した出力機器の電源スイッチをONし、且つ出力機器側の入力源を選択する等の面倒な操作が必要であると言う課題が有った。

【0010】又、データの種類によって、イコライザーのパラメータを一々変更したり、あるいは、サラウンド効果のON/OFFを切り換える手間が生じると言う欠点も有った。

【0011】本発明は、従来のこの様な課題を考慮し、データの出力先の切換が従来に比べてより一層容易に行えるデータ転送出力方法及び媒体を提供することを目的とする。

【0012】又、本発明は、データに応じた処理パラメータの切換が従来に比べてより一層容易に行えるデータ転送出力方法及び媒体を提供することを目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】請求項1記載の本発明は、データ部と、そのデータ部の内容を分類するための分類情報を含むヘッダ部とを有するデータ列を受け付けるステップと、前記受け付けたデータ列の内、前記ヘッダ部から前記分類情報を読み出す読み出しステップと、前記分類情報に対応するデータ部の転送先を定めたテーブルを利用して、前記読み出された分類情報からそのデータ部の転送先を決定する転送先決定ステップと、前記決定された転送先に対して、前記データのデータを転送する転送ステップと、前記転送されてきたデータを処理し、出力する処理・出力ステップとを備えたデータ転送出力方法である。

【0014】請求項2記載の本発明は、上記テーブルには、前記データ部に含まれる複数種類のデータのそれぞれに対応する転送先が定められており、前記転送先決定ステップで、前記分類情報から前記データ部に複数種類のデータが含まれていると判定された際、それら複数種類のデータを前記テーブルに定められた転送先に応じて分離する分離ステップを備え、前記データ部のデータを転送するとは、前記分離されたデータを対応するそれぞれの転送先へ転送することである請求項1記載のデータ転送出力方法である。

【0015】請求項3記載の本発明は、上記決定された転送先は複数個あり、且つ前記データ部に複数種類のデータが含まれている場合、それらデータを前記決定された複数個の転送先へ重複して転送し、各転送先では、前

記転送されてきた前記複数種類のデータから前記処理対象となるデータを分離し、その分離したデータを前記処理する請求項1記載のデータ転送出力方法である。

【0016】請求項10記載の本発明は、データ部と、そのデータ部の内容を分類するための分類情報を含むヘッダ部とを有するデータ列を受け付けるステップと、前記受け付けたデータ列の内、前記ヘッダ部から前記分類情報を読み出す読み出しステップと、前記分類情報に対応するデータ部の転送先と出力先とを定めたテーブルを利用して、前記読み出された分類情報からそのデータ部の転送先と出力先とを決定する転送先・出力先決定ステップと、前記決定された転送先に対して、前記データ部のデータを転送し、その転送したデータを処理する転送ステップと、前記処理されたデータを前記決定された出力先に送り、その送ったデータを出力する出力ステップとを備えたデータ転送出力方法である。

【0017】請求項11記載の本発明は、上記テーブルには、前記データ部に含まれる複数種類のデータのそれぞれに対応する転送先と、それら各転送先に対応する出力先とが定められており、前記転送先・出力先決定ステップで、前記分類情報から前記データ部に複数種類のデータが含まれていると判定された際、それら複数種類のデータを前記テーブルに定められた転送先に応じて分離する分離ステップを備え、前記データ部のデータを転送するとは、前記分離されたデータを対応するそれぞれの転送先へ転送することであり、前記決定された出力先に送るとは、前記対応する出力先へ送ることである請求項10記載のデータ転送出力方法である。

【0018】請求項12記載の本発明は、上記決定された転送先と出力先はそれぞれ複数個あり、前記決定された出力先は前記転送先と対応しており、且つ前記データ部に複数種類のデータが含まれている場合、それらデータを前記決定された複数個の転送先へ重複して転送し、各転送先では、前記転送されてきた前記複数種類のデータから前記処理対象となるデータを分離し、その分離したデータを前記処理し、その処理したデータを前記対応する出力先に送る請求項10記載のデータ転送出力方法である。

【0019】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について、図面を参照しながら説明する。

【0020】図1(a)、(b)は、本発明にかかるデータ転送出力方法の一実施の形態を適用したダウンロードシステムの構成図であり、同図を参照しながら本実施の形態の構成を説明する。

【0021】即ち、図1(a)において、データ転送出力制御装置200は、入力端子100に入力されてくる入力信号201の転送先あるいは出力先を制御するための制御装置である。リモコン202は、データ転送出力制御装置200に対してユーザが操作を行うための手段

である。入力端子100は、デジタル衛星放送による映像音声信号あるいは、VTRやDVD等の再生装置により再生された映像音声信号等の入力信号201を受け付ける端子である。大画面テレビ104、コンポ107、ラジカセ110、小画面テレビ111、パーソナルコンピュータ112が、データ転送出力制御装置200を中心とする家庭内ネットワーク203によりそれぞれ接続されている。

【0022】入力端子100に入力される入力信号201は、デジタル信号であり、そのデータ構成の概念図を図2(a)に示す。

【0023】ここで、図2(a)を参照しながら、入力信号201のデータ構成について説明する。

【0024】図2(a)に示す通り、入力信号201は、データ部204とヘッダ部205に分かれている。ヘッダ部205としてNビット確保されており、その内、従来装置が認識可能な領域205aがMビット(但し、 $N > M$ とする)であるとした場合、本実施の形態では、更にヘッダ部205の空き領域205bをも使用する。即ち、この空き領域($N - M$ ビットの領域)205bに、データ部204の内容に応じて、予め定められた基準に基づいて更に細かい分類を行い、何れの分類に属するかを識別するための分類コードを付加するとともに、処理パラメータあるいは処理パラメータを識別するためのパラメータコードを付加するものである。この処理パラメータは、例えば、データ部204の内容が音楽であれば、イコライザのパラメータ、サラウンドの有無等に相当する。

【0025】図2(b)に、分類の一例を示す。即ち、同図の最左欄206は、従来装置でも認識可能な分類の種類であり、ここでは、Mビットにより、データ部204の内容に応じて予め、映画、スポーツ、ニュース、ドラマの4種類のジャンルに分類されている。中央欄207は及び最左欄208は、空き領域205bに付加される分類の種類を示すものである。中央欄207は、4種類の各ジャンルについて更に細かく分類したものを示しており、例えば、映画のジャンルでは、SF・アクション、アニメ、その他と言う様に3種類のジャンル分けがされている。又、最左欄208は、それらのジャンル分けにふさわしい処理パラメータが予め定められている。尚、従来装置は、空き領域205bに付されたこれらの分類コードは無視する。

【0026】ここで、再び、図1(a)の説明に戻り更に詳細に構成を説明する。即ち、データ転送出力制御装置200は、上記リモコン202の他に、処理回路101、通信制御部102、及び通信部103を備えている。処理回路101は、入力信号201からヘッダ部205とデータ部204とを分離し、スクランブル解除処理を行う手段である。又、処理回路101は、データ部204のデータが映像データ401、音声データ40

10

20

30

40

50

2、あるいは通常データ403等が混在している場合は、混在するデータからそれぞれのデータを分離して通信部103へ出力するものである(図4参照)。通信制御部102は、ヘッダ部205に付加された分類コードに応じて、後述するテーブル(図3参照)に従って、データ部204の転送先(処理先とも言う)あるいは出力先を決定し、その決定結果を通信部103へ出力する手段である。通信部103は、通信制御部102の決定結果に従って、データ部204を指定された機器へ出力する手段である。又、通信部103は、家庭内ネットワーク203に接続されている各種接続機器の機器情報を得て、通信制御部102へ送る手段である。図4は、データ部204が処理回路101により分離されて得られた、各種データのデータ構成を示す図である。即ち、同図は、分離された各種データに、それぞれに対応する処理パラメータの付される領域、及び、テーブルにより決定されるそのデータの転送先及び出力先を識別する識別子が付される領域を示す。

【0027】大画面テレビ104は、映像音声信号や映像信号を処理するビデオオーディオ処理部105と、その処理信号を出力するビデオオーディオ出力部106とを備えている。ここで、ビデオオーディオ処理部105の構成を図1(b)に示す。図1(b)に示すとおり、通信部301は、ネットワーク203と接続されており、各機器の通信部とのデータの送受信を行う手段であり、出力部303は、処理された映像音声信号をビデオオーディオ出力部106へ出力するものである。又、制御部302は、データ記憶部304、ワーキングメモリ305等を利用しながら映像音声信号の処理を総括するものである。

【0028】コンポ107は、音声信号を処理するオーディオ処理部105と、その処理信号を出力するオーディオ出力部106とを備えている。

【0029】パーソナルコンピュータ112は、ネットワーク203と接続されているPC通信部113、制御部114、メモリ115、HDD116、グラフィック処理部117、サウンド処理部118、及びモデム119とその接続端子120とを備える。接続端子120は、電話回線を介して、インターネットと接続するためのものである。

【0030】ここで、上述したテーブルについて、図3を参照しながら更に説明する。図3は、本実施の形態におけるテーブルの概念図である。

【0031】即ち、同図に示す通り、テーブルの縦の欄は、データ部204の内容を示す分類コードを1~5の数字で示し、横の欄はデータの転送先及び出力先となる各機器の名称を示している。そして、縦の欄の各ジャンルに該当するデータ部204のデータについての、転送先(図中、△の識別子が付されている)や出力先(図中、○の識別子が付されている)が、横の欄の各機器の

区分に対応して示されている。例えば、同図に示す様に、分類コードが1(映画のジャンルに該当)の場合であれば、分類コードとして1が記載されている縦の欄の最上段の内、横の欄の”大画面テレビ”と記載された欄に対応するところに、△識別子と○識別子が記載されており、且つ、”映像・音声データ”と記載されている。又、横の欄の”コンポ”と記載された欄に対応するところに、△識別子と○識別子が記載されており、且つ、”音声データ”と記載されている。これは、データ部204の内容が、映画であり、その映像音声データから分離された映像データが大画面テレビ104に転送されて、ビデオオーディオ処理部105で処理され、且つその大画面テレビの出力部106から表示出力されることを示し、且つ、その映像音声データから分離された音声データがコンポ107に転送されて、オーディオ処理部108で処理され、且つそのコンポの出力部109から出力されることを示す。即ち、この様に、分類コードとその分類に属するデータの転送先・出力先との対応関係を有するテーブルが、通信制御部102に備えられている。尚、このテーブルの内容は、ユーザが所有している機器に応じて設定変更が可能である。設定変更については更に後述する。

【0032】以上の構成において、以下に本実施の形態の動作を説明しながら、本発明のデータ転送出力方法の一実施の形態について同時に述べる。

【0033】ユーザがディジタル衛星放送を受信して、映画番組を視聴する場合を例にとり説明する。

【0034】映画番組の入力信号201が処理回路101により受け付けられて、ヘッダ部205とデータ部204に分離され、データ部204は更に映像データと音声データとに分離されて処理パラメータが付されて通信部103へ出力される。通信制御部102は、送られてきたヘッダ部205から分類コードを読み取り、図3に示すテーブルを用いて、その分類コードに対応する、データの転送先及び出力先を調べる。ここでは、入力信号は映画番組であり、従って、その分類コードは1であるから、上述した通り、映像信号401の転送先と出力先は、いずれも大画面テレビ104であり、又、音声信号402の転送先と出力先は、いずれもコンポ107であることが通信制御部102により決定される。この決定を受けて、通信部103では、処理回路101からの分離された各種データに対して図4に示した領域に、転送先と出力先の識別子が付される。通信部103は、映像データ401については、その転送先・出力先が大画面テレビ104であることを読み取り、大画面テレビ104へデータを転送する。転送されてきた映像データ401は、ビデオオーディオ処理部105で処理され、ビデオオーディオ出力部106から表示出力される。

【0035】一方、通信部103は、音声データ402については、その転送先・出力先がコンポ107である

ことを読み取り、コンポ107へデータを転送する。転送されてきた音声402は、オーディオ処理部108で処理され、オーディオ出力部109から音声出力される。この場合、音声データ402に付された処理パラメータがオーディオ処理部108で使用される。尚、転送先・出力先の各接続機器の電源は、データが送られてくると自動的にONされる。又、リモコン202を用いて、ユーザが各接続機器の電源をON/OFFすることも出来る。

【0036】以上のように、予めヘッダ部に分類コードや処理パラメータが付されており、それらと対応するテーブルが予め用意されているので、ユーザは、視聴したい番組を選択するだけで、従来の様な面倒な作業をしなくても、各種接続機器の機能を最大限に活用出来ると言う効果を発揮する。尚、ここでは、ユーザがディジタル衛星放送を受信して、映画番組を視聴する場合を例にとり説明したが、これに限らず例えば、VTRやDVDの再生装置からの再生信号により映画等の各種映像音声データを視聴する場合でも同様の効果を発揮する。又、入力端子100からの信号に限らず、接続端子120からモデム119を介して入力されたデータも、そのデータ構成が、図2(a)、(b)で説明したものであれば、上述したデータと同じ処理が可能であることは言うまでもない。

【0037】尚、図3のテーブルの内容を更に補足説明する。即ち、入力信号の分類コードが2(ニュースに該当)の場合、映像・音声信号とも大画面テレビ104に転送されて、ビデオオーディオ処理部105で処理され、ビデオオーディオ出力部106から表示出力と音声出力の双方の出力が行われる。又、入力信号の分類コードが3(音楽番組に該当)の場合、データ部204のデータが音声信号のみであるので、コンポ107へ転送されて、オーディオ処理部108で処理され、オーディオ出力部109から音声出力が行われる。更に、入力信号の分類コードが4(データ放送に該当)の場合、データ部204のデータがパーソナルコンピュータ112へ転送されて、例えば、メモリ115へ出力される。更に又、入力信号の分類コードが5(教育番組に該当)の場合は、上記の場合と若干異なり、転送先と出力先が同一でない場合に該当する。テレビ大学講座等の教育番組は、家族全員で視聴するよりも、各個人の部屋で視聴する方が多いことを考慮して、データを処理する機器と出力先の機器が変えてある。この場合は、データ部204のデータが映像・音声信号であるので、映像信号が大画面テレビ104に転送されて、ビデオオーディオ処理部105で処理され、その処理信号が、ネットワーク203を介して、小画面テレビ111へ送られて、その小画面テレビ111から表示出力される。ここで、図1

(b)に示す様に、ビデオオーディオ処理部105で処理される信号は、通信部301を一旦データ記憶部30

4に格納され、制御部302によりワーキングメモリ305を利用したデータ処理が施される。そして、制御部302は、データ記憶部304に格納されたデータのヘッダ部からその出力先(図4参照)が小画面テレビであることを認識して、通信部301に対して、処理済みの映像データを送り、小画面テレビ111へ転送させる。

【0038】一方、音声信号はコンポ107のビデオオーディオ処理部108に転送されて処理され、その処理信号が、ネットワーク203を介して、ラジカセ110へ送られて、そのラジカセ110から音声出力される。従って、ラジカセの録音機能も利用出来る。

【0039】次に、図3で述べたテーブルの内容を変更する場合について説明する。

【0040】即ち、ユーザが、転送先・出力先の欄の設定を変更する場合、各接続機器に機器自身の識別情報が格納されておれば、その識別情報が、通信部103を介して、通信制御部102へ送られるので、常にネットワーク203に接続されている機器の管理が可能である。その場合、ユーザからの指示により、通信制御部102は、接続機器のリストと変更前のテーブルのデータとをビデオオーディオ処理部105に送り、ビデオオーディオ出力部106の表示画面上に表示させる。ユーザは、表示画面上のそれらの表示を見ながら、テーブルの転送先・出力先の欄の増設あるいは削除を、リモコン202による簡単な操作で行える。具体的には、テーブルを増設する場合、リモコン202からの指示により、表示画面上のカーソルを移動させ、リスト中の所望の接続機器の表示を選択指示することにより、その選択した接続機器に対応する新たな欄がその機器の名称とともにテーブルに自動的に増設される。この様にして増設した新たな接続機器と、分類コードとの対応づけを行うために、テーブル中の該当位置に、データの転送先と出力先を示す△と○の識別子をリモコンからの操作により選択指示する。更に、それら転送先あるいは出力先へ送るデータが、映像データ401、音声データ402、あるいは通常データ403(図4参照)の何れであるかを選択指示するものである。勿論、上述したリストが無い場合、新たに増設する機器の名称をリモコン202あるいはキーボード(図示省略)等から直接入力してテーブルを変更してもよい。

【0041】又、テーブルに定められた出力先に関わらず、ユーザが電源をONした機器を優先して出力先とすることにより、出力先を変更することが出来るものである。これにより例えば、図3に示す通り、分類コード2のスポーツ番組は大画面テレビで視聴する様にテーブルが設定されている場合であって、一時的に、別の部屋の小画面テレビでスポーツ番組を視聴したいとき等に、わざわざテーブルの処理先・出力先の設定を変更する必要がないので極めて使い勝手がよい。

【0042】又、通信制御部102が、ユーザによるこ

の様な出力先の変更履歴を一定期間記録して、それらのデータを基に統計をとり、最も利用頻度の高い出力先に合わせて、テーブルを自動的に更新する構成としてもよい。

【0043】一方、処理パラメータは、ヘッダ部205に予め格納されているものをユーザの好みに合わせて変更したり、あるいはリモコン202から直接指定してもかまわない。又、ユーザの好みに応じた別途ダウンロードしたパラメータのリストから選択することも可能である。

【0044】ところで、実施の形態において述べたダウンロードシステムにおける手段の全部又は一部の手段の機能を、コンピュータに実行させるためのプログラムを所定の媒体に記録したものを作成し、その媒体を利用することにより上記内容と同様の動作を実現することが出来る。媒体は、フロッピーディスクや磁気ディスクあるいは光ディスク等のような媒体でもかまわない。

【0045】尚、上記実施の形態では、テーブルが1種類の場合について説明したが、これに限らず例えば、通信制御部において複数種類のテーブルが設けられており、それら複数種類のテーブルの中から、利用対象となるべきテーブルを選び出す構成であってもよい。この場合、複数種類のテーブルの内、例えば、第1のテーブルは子供用のテーブルであり、第2のテーブルは父用のテーブルであり、第3のテーブルは母用のテーブルと言う様に予め決めておけば、テレビを視聴する際に、誰が視聴するのかにより、使用するテーブルを選択指示するだけで、それぞれの好みに対応した処理機器や出力機器を自動的に選択出来ると言う効果を発揮する。

【0046】又、上記実施の形態では、データ部のデータ処理に利用される処理パラメータが、ヘッダ部に予め格納されている場合について説明したが、これに限らず例えば、テーブルに格納されている構成でもかまわない。この場合、処理パラメータをユーザの好みに合わせて変更したい場合、リモコン202を用いてテーブルの内容を直接変更指示したり、あるいは、ユーザの好みに応じた別途ダウンロードしたパラメータのリストから選択することが出来る。

【0047】又、上記実施の形態では、テーブルが変更された際、その変更履歴を蓄積し、その蓄積された変更履歴に基づいて、テーブルを更新する場合について説明したが、これに限らず例えば、処理パラメータが変更された際、その変更履歴を蓄積し、その蓄積された変更履歴に基づいて、処理パラメータを更新する構成でも良い。

【0048】又、上記実施の形態では、データ部に含ま

れているデータが複数種類あればそれらを分離した後に、その分離したデータを転送先又は出力先へ送る場合について説明したが、これに限らず例えば、上記複数種類のデータを分離しないまま、一つ又は複数の転送先あるいは出力先へ送り、送られてきたそのデータの受け手の側において分離し、その分離したデータに所定の処理を施す構成としても良い。

【0049】又、上記実施の形態では、各データの処理部がデータ転送出力制御装置以外の各接続機器内に設けられている場合について説明したが、これに限らず例えば、データ転送出力制御装置等に設けられていても良く、ネットワーク上で各処理部が少なくとも1つあれば良い。

【0050】

【発明の効果】以上述べたところから明らかなように本発明は、データの出力先の切換が従来に比べてより一層容易に行えると言う長所を有する。

【0051】又、本発明は、データに応じた処理パラメータの切換が従来に比べてより一層容易に行えると言う長所を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】(a)：本発明にかかるデータ転送出力方法の一実施の形態を適用したダウンロードシステムの構成図

(b)：(a)に示すダウンロードシステムの内、ビデオオーディオ処理部についての構成図

【図2】(a)：同実施の形態におけるデータ構成の概念図

(b)：同実施の形態における分類の一例を示した図

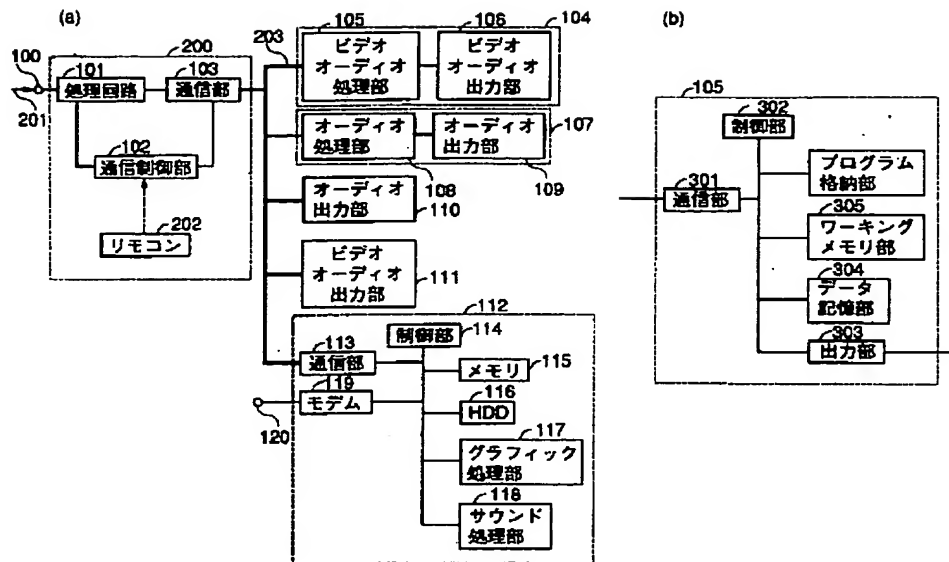
【図3】同実施の形態におけるテーブルの概念図

【図4】データ部が処理回路により分離されて得られた、各種データのデータ構成図

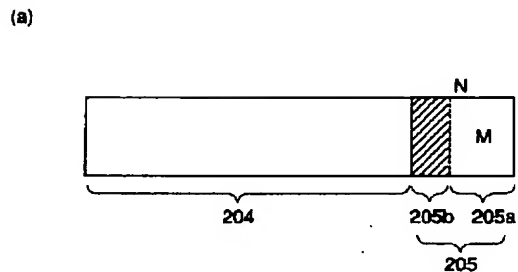
【符号の説明】

100	入力端子
104	大画面テレビ
107	コンポ
110	ラジカセ
111	小画面テレビ
112	パーソナルコンピュータ
200	データ転送出力制御装置
201	入力信号
202	リモコン
204	データ部
205	ヘッダ部
205a	認識可能な領域
205b	空き領域

【図1】



【図2】



(b)

1.映画	①	a
	②	b
	③	c
2.スポーツ	①	a
	②	d
	③	e
3.ニュース	①	d
	②	f
4.ドラマ	①	a
	②	b
	③	d

【図3】

出力先 分類	TV1	TV2	コンボ	ラジカセ	PC
1	(映像) ○ △		(音声) ○ △		
2	(映像) ○ △				
3			(音声) ○ △		
4					(全データ) ○ △
5	(映像) △	(映像) ○	(音声) △	(音声) ○	

【図4】

